

B-5 北海道における服地の汚染と変退色に関する研究 (VI)

—白布地の汚染と洗浄による変退色の研究—

北海道教育大 伊藤 花子

1. 本研究は、北海道の自然環境において服地がどのように変退色するかを究明するために行なっているものである。

札幌市における繁華街は、暖房にともなう公害が問題視されており、とくに最近ではスモーク以外に有毒ガスの影響が論議の対象になっている。

2. 今回は札幌市の最も公害の大きい地区と、郊外の住宅地の両方で、まず暴露実験を行なったが、従来と方法を変えて条件を晴天のみにし、時間を日照度の高い11時から午後3時までと定めた。また期間を2段階に分けて27時間と40時間の両方を試みた。つぎに暴露布を洗浄することにより、それが試料に対しどのように変化したか、また最後に摩耗試験を行なって毀損の状態の把握をはかった。

布地の変退色は測色計により、比反射率、刺激純度、主波長等によって調べ、洗浄はラウンダオメーターを用いて行ない、濁度も測定した。

3. 本研究のような自然現象を対象とした実験は、多くの条件が、それぞれの繊維に複雑な影響を与えるため、一定の法則をとりあげることが困難である。しかし変化の状況は究明でき、また今後の研究に大きな資料を提供したことは効果的であった。